

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	㈱ライフケア創合研究所	代表者	湯川直紀	法人・事業所の特徴	「Re 日常」もう一度、元のように自分の力で生きている地域の一人として暮らしているという実感が得られるよう利用される方の自宅での普段の状態観察を大切に、在宅生活が安定して行えるようつながりを大切に考えています。代表者が理学療法士で事業所内にリハビリコーナーをつくり、リハビリや介護予防にも取り組んでいます。また、普段の行動や生活の中にも広い意味でのリハビリテーションの観点から楽しんでいきいきと地域で暮らすための個別の取り組みにも力を入れています。積極的な施設開放、イベント開催を行い地域交流の場、環境づくりを考えていきたいと思っています。
事業所名	いこいの家26	管理者	行徳牧恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	0人	3人	2人	3人	1人	0人	3人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の振り返りを日々の運営に活かせるよう年間を通じて具体的に取り組む。	利用者、地域から求められている施設としてのあるべき姿を模索しながらできるだけ柔軟なサービス提供ができるよう取り組んできた。まだこれで十分と言える段階ではない。	常勤職員とパート職員の間で意識の差がありそうだ。研修を重ねること、外部の研修に参加すること、他事業所との意見交換で、自分たちの取り組みに対する自信がつくのではないかと。	柔軟なサービスの組み合わせによる在宅生活の支援ができる体制を維持する。計画的に研修を実施する。改善計画内容を意識して取り組めるよう、ミーティングを充実させる。
B. 事業所のしつらえ・環境	外からの見え方に考慮し、誰が見ても何をするとわかるかややすい掲示、案内の工夫を継続する。	保育所の設置に伴い、外観が目立ち来訪者が増えた。地域の方の介護相談も増え、介護事業所として認識がされてきたと感じている。	音楽が流れていて、利用者はいつも穏やかな雰囲気である。ユニフォームを揃えるなど、外部の意見をすぐに取り入れて対応しているのは良いことだ。	利用者が安全かつ快適に過ごすことのできる環境を維持する。
C. 事業所と地域のかかわり	介護予防教室を充実させ、効果的な広報活動を行うことで事業所のことをより地域に理解していただけるよう取り組む。	介護予防教室には継続して参加してもらえるようになっている。	特定の職員だけでなく、パート職員でも地域行事に参加してほしい。介護予防教室参加者の意見を聞いてみるとういのではないかと。	まだ介護が身近でない人にも興味を持ってもらえるような介護予防教室の企画内容を検討する。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>利用者や利用者以外の心配な様子のある地域の方については、プライバシーに配慮しながら、民生委員や自治会と情報共有を行う。利用者の生活する地域の活動を知る。</p>	<p>ご近所の友人や民生委員さんが利用者を訪ねて来られるなど、地域での関係性が途切れないようにできている。</p>	<p>地域のサロンなどにも参加することも地域を知ることにつながるのではないかと。</p>	<p>利用者と一緒に地域に出かけ、地域での暮らしや地域の情報を共有できる機会を持つ。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>普段の取組みだけでなく、地域活動について積極的に報告する。</p>	<p>多くの地域関係者に出席いただけるようになり、普段の取組みと地域活動の報告ができた。個別の利用者の様子をお伝えし、ご意見をいただくこともあった。</p>	<p>参加者間で積極的な意見交換ができていたので良い。事業所の中のことだけでなく、地域に向けた取組みのこまで考えていて良い。</p>	<p>事業所の取組みについて、わかりやすい報告を行う。個別のケアからコミュニティケアまで視野に入れた意見交換の場として活用する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>地域の防災避難訓練への参加を継続する。火災以外の災害を想定した避難訓練を計画実施する。</p>	<p>地震災害時避難行動訓練（シェイクアウトいこま）、上町防災訓練に参加した。</p>	<p>防災計画があるということを知らなかった。</p>	<p>保育園と合同の消防訓練、避難訓練計画を策定し実施を継続する。災害備蓄をすすめる。</p>